

狭山の元気 発見

躍 いきいき狭山人
びと

浦和レッズジュニアユースに所属 全日本女子ユース(U 15)サッカー選手権 大会で二連覇を達成

日本サッカー界の名門チームの一つ、浦和レッズダイヤモンドズ以下「浦和レッズ」。1993（平成5）年にスタートした日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）に加盟し、これまで

数々の栄誉に輝いた実績は多くの皆さんの知るところです。が、「浦和レッズレディース」、「浦和レッズジュニアユース」、「浦和レッズジュニアユースレディース」も、それぞれのリーグなどで優秀な成績を収めています。

今回ご紹介する栗島朱里さんと佐藤美早紀さんは、中学3年生以下の全日本女子ユース(U 15)サッカー選手権大会で2連覇を達成した浦和レッズジュニアユースレディースに所属し、日々サッカーに打ち込む青春を送っている中学生です。

別々のスポーツ少年団で活躍していました。一人ともジュニアユースレディースのセレクションを受けるまでに上達し、80名ほどの応募の中から11名の合格者の一人に選ばれたことは、喜びとともに、「まさか受かるなんて」という信じられない気持ち

が本音だったそうです。

入団してからは、週5日、さいたま市のグラウンドで汗を流し、はじめは、土手のダッシュやインターバルなど、体力をつける練習についていくのが大変でした」と二人が話す。おと、小学校のときにはなかつた厳しい練習に慣れるまで、時間がかかりました。

ジュニアユースレディースの最上級生の中学3年生になつてからは、「みんなの気持ち

を前面に出させるように心がけました。栗島さん（左）頼られる先輩になれるか心配でしたが、みんなと相談しながらやってきました。佐藤さん（右）という苦労のさいもあり、見事にサッカー選手権大会で優勝を果たしました。

最後に、今後の抱負を聞くと、栗島さんは「浦和レッズレディースのトップチームに昇格したい」、佐藤さんは「とにかくサッカーにずっとかかわっていきたい」と夢を語ってくれました。

これからも、二人の一層の飛躍が期待されます。



全日本女子ユース(U-15)サッカー選手権大会で2連覇を達成した中学3年生のメンバー。みんなで喜びを分かち合いました(前列右から2番目が栗島さん、後列右端が佐藤さん)



キャプテンとして、チームを引っ張る栗島さん



スピードあふれる佐藤さんのドリブル

栗島さんがサッカーを始めたのは、小学2年生のときに男子にサッカーチームに誘われて、やってみようかなと思つたのがきっかけでした。佐藤さんも、友達や兄がサッカーをしていて、小学3年生のときに体験教室に行つて楽しさを知つたのが始まりでした」と話し、それぞれ市内の

を前面に出させるように心がけました。栗島さん（左）頼られる先輩になれるか心配でしたが、みんなと相談しながらやってきました。佐藤さん（右）という苦労のさいもあり、見事にサッカー選手権大会で優勝を果たしました。



栗島さん(左)と佐藤さん(右)
栗島朱里さん(入間川中学校3年)
佐藤美早紀さん(西中学校3年)

第14回全日本女子ユース(U 15)サッカー選手権大会 優勝

子どもが安心できる教育環境を



小林祥夫さん
(青柳在住)

今年の5月から狭山市民の仲間入りをしました。右も左も分からない私がこのまちを知ろうと思っているところに、一番最初に目にしたのが「広報さやま」です。10月号で6冊を数えましたが、市民が地域活動に積極的に参加している姿は、このまちの貴重な財産だと感じています。

また、最後のページの池原昭治さんの「さやまの絵本」を読んで、このまちを知ることはとても面白いなと思っていますが、その反面、教育、環境、防災など真剣に取り組むべき課題も多いことに気がつきました。

特に、教育に関しては、全国共通の課題となっていますが、いじめ、不登校や精神的な悩み、自己中心的な親の子どもに対する愛情の欠如、不況の影響で子どもに満足な教育を受けさせることができないなど、現代の子ども達は、勉強やスポーツに集中する余裕がなくなっているのではないかと心配しています。

子どもは、将来の狭山市や国を背負っていく宝です。市としてどのような施策や対策に力を入れているのか教えてください。

市の考え方

貴重なご意見ありがとうございます。

狭山市では、重点施策の一つとして「教育相談・教育支援体制の充実」に取り組んでおり、さやまっ子相談員・相談支援員、スクールカウンセラー、教育センター相談員を配置するとともに、諸機関と連携して、いじめの根絶と不登校の解消に努めています。また、経済的援助策としては、就学援助制度、奨学金制度もありますので、お気軽にご相談ください。

担当 教育指導課

皆さんの「声」をお待ちしています。お寄せいただく際は、住所、氏名、電話番号をご記入ください。☎2954 6262(代)
✉koho@city.sayama.saitama.jp

私の宝物 ...

カメラは私の人生の記録です

幼いころから、私の身の回りにはいつもカメラがありました。押入れの中で父親の現像作業をよく手伝ったものです。中学生になり、初めて自分のカメラを買ってもらったときのうれしさは忘れられません。



角川照江さん
(入間川在住)

社会人になった私は、やはり写真への興味が尽きず、旅行や行事などの撮影をしてきました。独学でしたが多くの作品ができ、今では個展を開くまでになりました。



左は私と歩んだマイカメラ。右は現在の愛用品です

私の目となり腕となり、人生を記録してくれたこのカメラは、私の大切な宝物です。

次回は南入曽にお住まいの方をご紹介します。

Hello ハロー 仲間たち

Vol.339



演奏と参加者の歌声で楽しい雰囲気になります

さやま管弦楽クラブ

私たちのクラブは、平成17年に管弦楽の生の演奏を多くの皆さんに楽しんでいただきたいとの思いから始まり、現在、月3回、10名の会員が広瀬公民館で練習をしています。

主な活動は、広瀬公民館で毎年行っているアンサンブルコンサートと高齢者施設などへの訪問演奏です。

私たちが最も大切にしていることは、参加者と演奏者が一緒に楽しむということです。そのため、演奏会ではクラシックのほかにも懐メロやアニメの曲などを多く取り入れ、幅広い年齢層にあった曲目を選曲し、演奏するように心がけています。また、最近は一緒に演奏会を盛り上げていけるようにと、参加者に歌詞カードを配り、歌ってもらうことで、会場に一体感が生まれるよう工夫しています。

これから、少しずつ活動の場を広げながら、より多くの方と一緒に管弦楽を楽しめるよう、会員一同、力を合わせがんばっていききたいと思います。

問合せ 小川妙子さんへ

2957 2009